

## 認定こども園施策に関する論点について

令和7年(2025年)5月26日  
第3回社会福祉審議会認可部会

# 本日の議論

## 背景

- 令和2年から認定こども園の設置支援を推進してきたが、このときに「5年後の「子ども・若者支援育成計画」の見直し時に、ニーズや社会状況を勘案して、見直しを行う」としており、現在がその見直しを行うタイミングである。
- 本年4月に作成した「八王子市乳幼児期の教育・保育に関する方針」では「認定こども園施策については、保育所・幼稚園の互いの需要の競合・幼児教育・保育施設の経営への影響が考えられることから、方向性を慎重に検討すること」としている。



## 前回の振り返りと本日の議論

- 前回は定員の確保状況や需給バランスなどの量の視点、質の向上に向けた取組などの質の視点を踏まえた認定こども園施策について、ご議論いただいた。
- これらを踏まえ、本日は認定こども園施策について、八王子市の保育の現状や質の向上の取組、施設の機能などを考慮して、移行支援を継続すべきか否かを含め、ご議論いただきたい。

# 本日の議論

## 本日の論点

### 1 認定こども園の機能と設置の背景

→ 幼児教育と保育の一体的な提供が可能である認定こども園の機能 を踏まえた視点

### 2 認定こども園の現状と課題(量の視点)

→ 保育所・幼稚園定員の確保状況や空き定員の増加、需給バランスや市内の認定こども園の整備状況などの現状と課題 を踏まえた量の視点

### 3 認定こども園の現状と課題(質の視点)

→ 幼児教育・保育の質の向上に関する取組や認定こども園化による効果と課題 を踏まえた質の視点

### 4 認定こども園の事業費

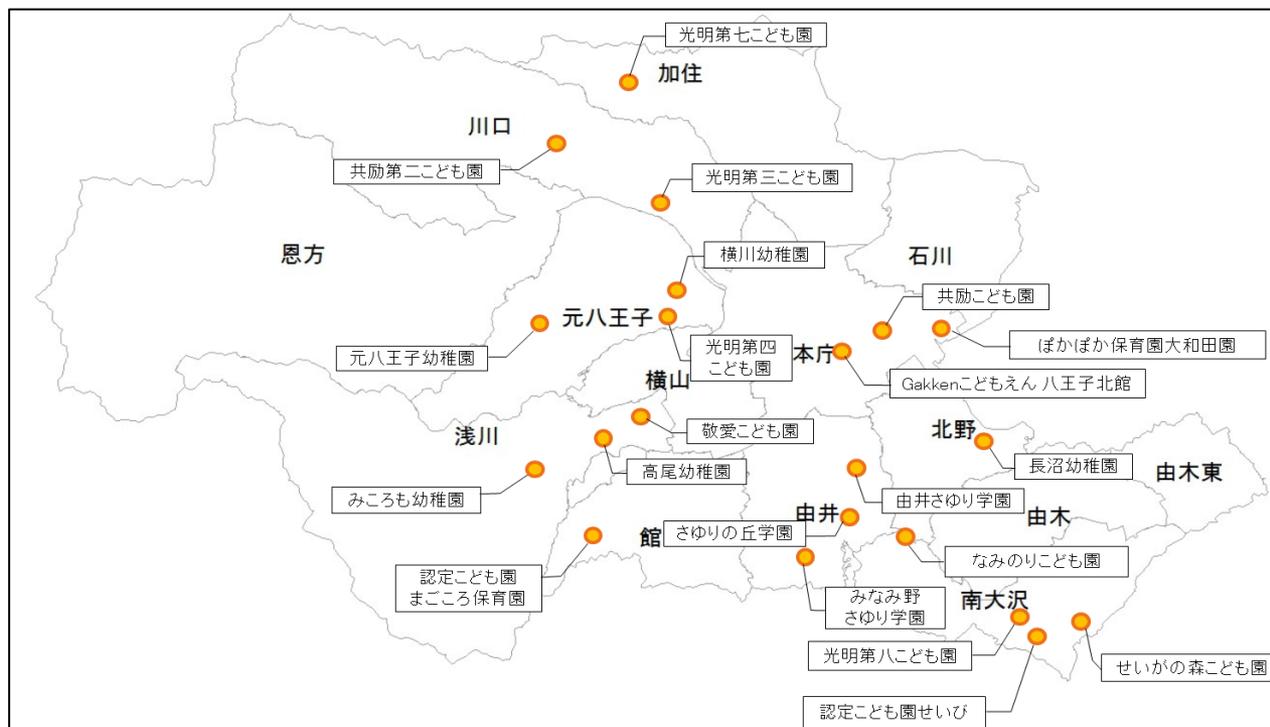
→ 認定こども園の事業費と費用対効果 を踏まえた視点

### 5 その他

→ その他施策の方向性を議論するにあたり必要な視点・要素 を踏まえた議論

# 1 認定こども園の機能と設置の背景

- 認定こども園は、次の二つの機能(特徴)を備えた施設である。
  - 保護者の就労状況に関わらず子どもを受け入れ、教育・保育を一体的に提供。
  - 地域の子育て支援を行い、認可(認定)を受けた施設。
- 認定こども園の設置支援にあたり、市内全域に偏りが無いよう設置してきた。(R6.4.1現在21施設)

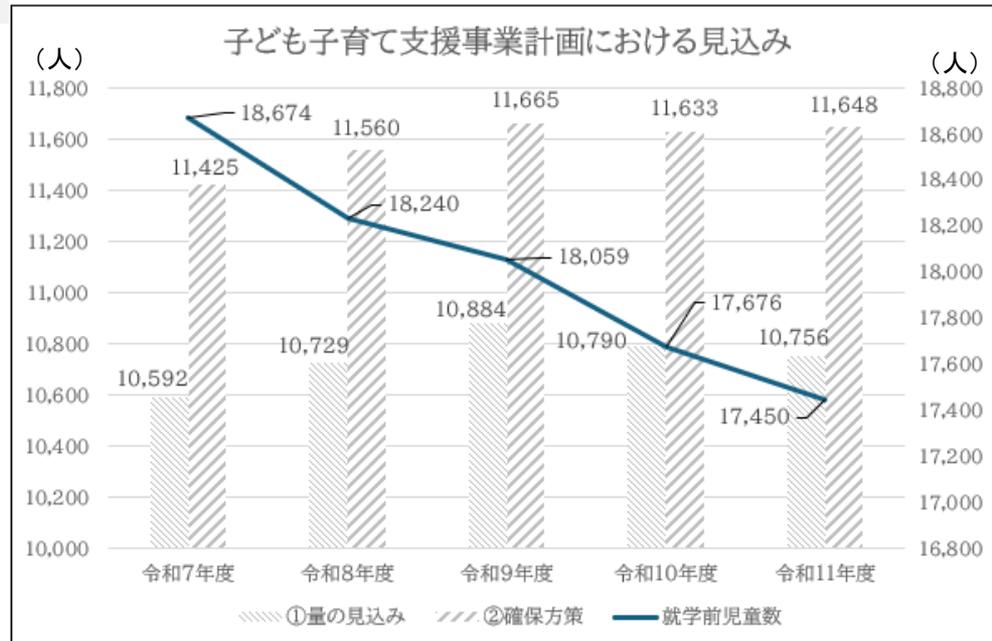


第1回認可部会(令和7年4月28日)資料1から抜粋

## 2 認定こども園の現状と課題(量の視点)

- 就学前児童数は減少しており、認可保育施設における空き定員数は486人、弾力化を除くと、975人となっている。(R6.4.1現在)
- 令和7年から令和11年までの子ども・子育て支援事業計画における見込みでは、量の見込みは減少すると予測され、確保方策(=保育定員数)は十分に確保できる見通しである。
- 待機児童数も減少傾向にあり、平成22年の496人から令和6年は15人となった。
- 方針(※)では、施設の新規整備は、就学前児童数の減少傾向を踏まえると効果的とはいえないため、今後は実施しないこととし、既存施設の改築・修繕を進めるとしている。

※八王子市乳幼児期の教育・保育に関する方針



第2回認可部会(令和7年5月12日)資料1から抜粋

## 2 認定こども園の現状と課題（量の視点）

### 量

#### 【現状】

- 就学前児童数の減少、特定教育・保育施設の空き定員の増加。
- 八王子市内の保育所定員・幼稚園定員の確保状況は充足している。
- 八王子市内に認定こども園は偏在することなく、広く配置されている。



#### 【課題】

- 認定こども園化による新たな定員の設定は、保育所・幼稚園ともに互いの需要と競合し、需給バランスを損なう可能性がある。

#### 【参考】前回までに出た意見

- 認定こども園化によって保育と教育、互いの需要へどう影響するのか、また、空き定員が多い状況で、今後の施設運営自体への影響を懸念している。
- 保護者の選択肢が増える良い側面があるが、現状の幼稚園では、1クラスを維持できない園も多いため、幼稚園の需要が減少している中、認定こども園化による需要の競合は好ましくないと感じている。



### 3 認定こども園の現状と課題（質の視点）

#### 質

#### 【現状】

- アンケート結果では認定こども園化による変化を感じていない意見が多い。
- 保育所・幼稚園・認定こども園などの施設の枠組みにとらわれない乳幼児期の育ちを支える様々な取組を展開している。



#### 【課題】

- 認定こども園化だけではなく、様々な手法を活用し全体的な保育の質の向上を図っていく必要がある。

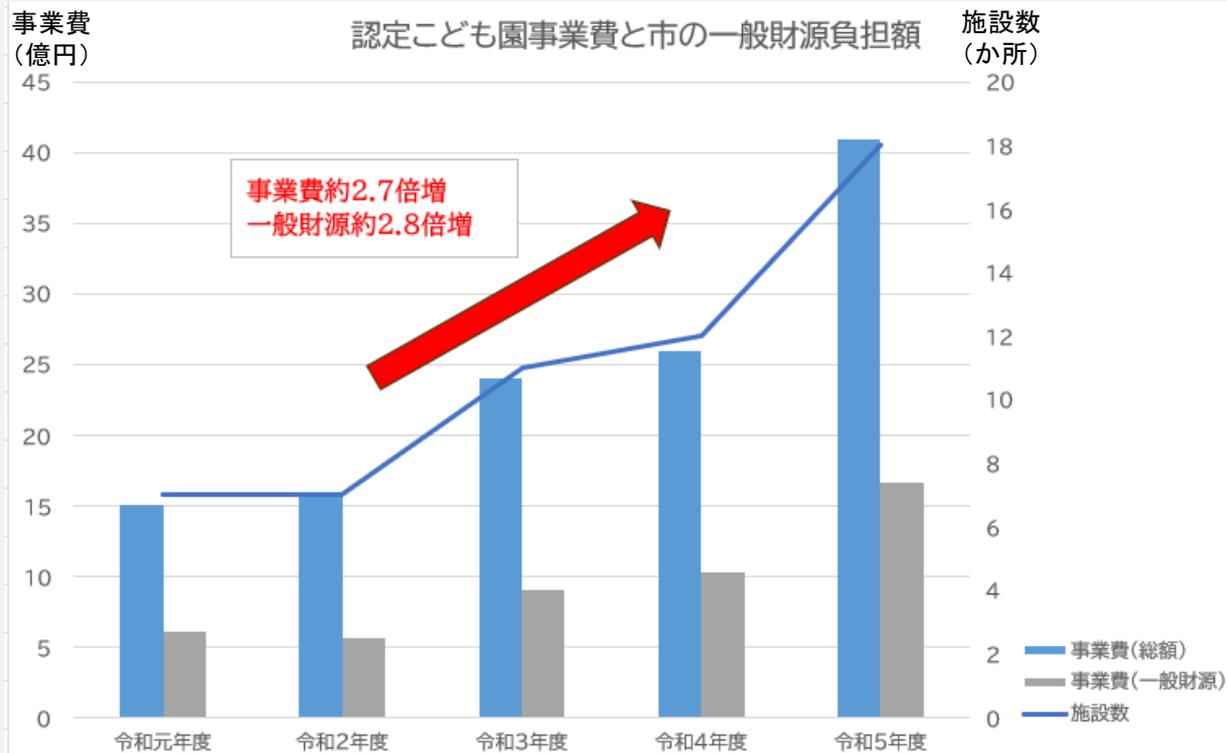
#### 【参考】前回までに出た意見

- 保育所においても教育的部分を取り入れており、幼稚園においても預かり保育を行い保育的部分を取り入れている実態がある。
- 保育士配置基準の見直し、研修の充実など質の向上の取組は実施している。
- 質の向上は保護者が感じる事が重要であるため、アンケート調査結果を参考に、定期的にモニタリングすることや、保護者に向けた質の向上の取組を推進するのが良いのではないか。
- 認定こども園化しなければならないことはあまりないのではないか。



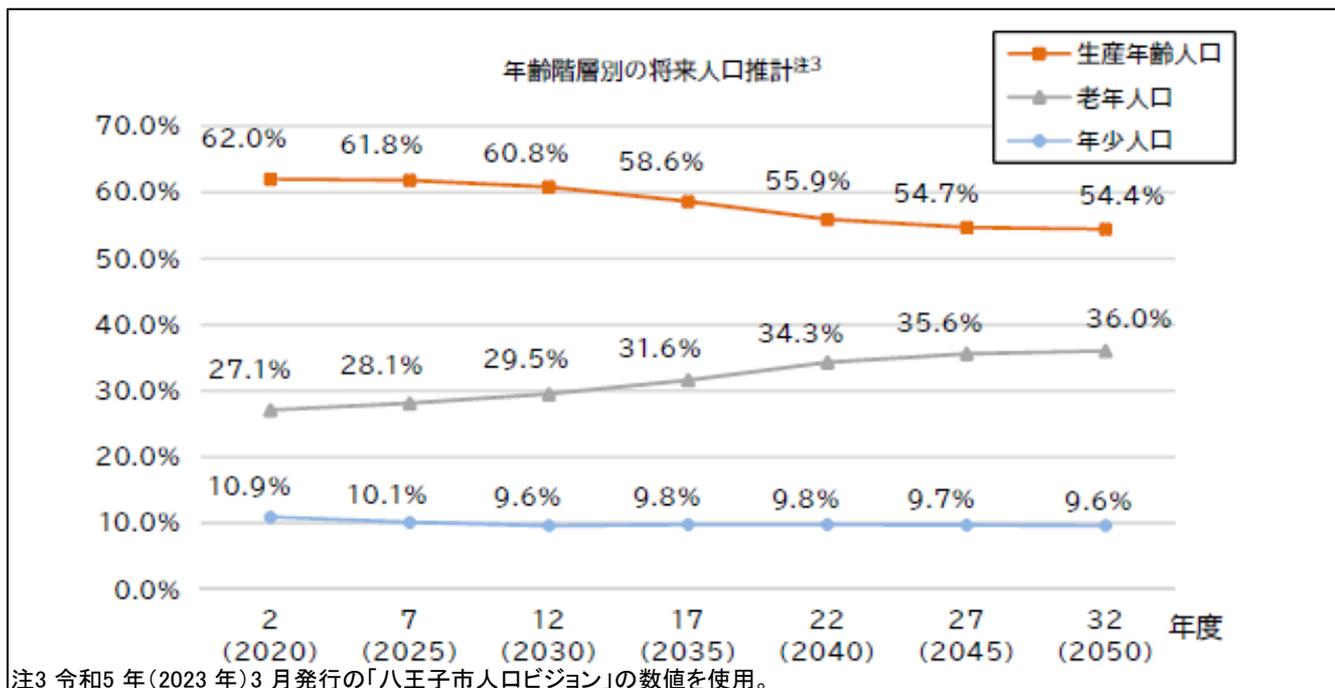
# 4 認定こども園の事業費

- 認定こども園の事業費は令和元年度の約15億円から令和5年度には約41億円となっており、約2.7倍である。
- 市の負担額(一般財源)は令和元年度の約6億円から令和5年度には約17億円となっており、約2.8倍である。
- 施設数、在園児数の増加に伴い、市の事業費も増加している。  
(施設数:7カ所→18カ所、在園児数:14,437人→30,774人(令和元年→令和6年))



# 参考 今後の税収見通し

- 令和6年度版市税白書(八王子市発行)において、今後の税収の見通しについて以下のとおり記載されている。
  - 今後は、本市においても人口減少・少子高齢化が本格化するため、市税収入の増加は見込めない状況です。一方で、高齢化の進行による扶助費の増加や、老朽化が進む学校などの公共施設の維持・更新のためには、多額の経費が必要となります。



市税白書(令和6年度(2024年度)版)(令和6年9月八王子市)から抜粋

# 参考 前回までの会議で出たご意見・ご質問

## 全体を通した抜粋(量・質の視点は2,3記載のため省略)

園にとって機能が付加されるため、社会的にもニーズがあり、推進の方向性は問題ないと考えている。

認定こども園でなければ実施できない事業や取組はあるのか。

保護者の就労状況に関わらず在園できることは、ニーズがあると考えている。  
一方で、保育所・幼稚園といった個別の施設も必要であると思われるため、実際に施設を運営している事業者からの意見もあるのであれば、その理由も受け止めて議論すべきである。

